

コロナ禍の会員奮闘特集 第 2 弾

会長 挨拶

何をするにもコロナ。活動も思うように出来ない現状をどう乗り切るか、みなさまも苦労していることと思います。V 連として何をしたら会員の活動に役立つのか。施設見学、サークル間の交流、他市の活動実態・意見交換などの場をできるだけ提供していきます。

地域に根ざした活動を行い、地域福祉がより良いものになるよう みなさんと協力していきます。

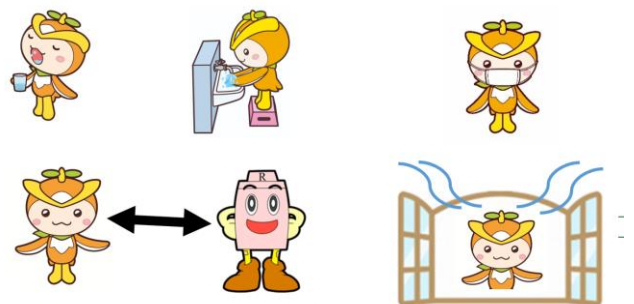
うがい、手洗い、マスク

ソーシャルディスタンス、換気

まだしばらくは 十分 注意！

もくじ

コロナ禍での会員奮闘特集 第 2 弾-----	本頁
グリーンヒル交流の広場-----	本頁
所沢点訳グループ「花みずき」-----	2
手話サークル二三-----	3
V 連からのお知らせ・編集後記-----	4



(山梨県「ハイジの村」)

グリーンヒル交流のひろば

ようやくコロナ禍の収束が見えてきたのでしょうか。

経験した事のない状況下で、あらゆる面での活動中止は残念でした。

高齢者が多い地域では、顔を合わせて談話したり 外へ出かけたりする事は、生活の中での張り合いになると思います。交流のひろばでは、昼食をとりながらの談話、四季折々の行事、日帰りバス旅行、ところん元気百歳体操などを行っています。

しかしながら、コロナ禍では、早く元の楽しい日々に戻る事を

願って体力維持のためにところん元気百歳体操だけを行っています。

(代表記)



「クリスマス会」



所沢点訳グループ「花みずき」

点字とコロナ禍の「ふくし学習」

まず、最初に「ふくし」をひらがなにしている理由は、所沢市社会福祉協議会では「ふくし学習」としているためです。その所沢市社会福祉協議会を通して視覚障がい者の文字である「点字」を学びたいと毎年、数校の小学校や中学校から依頼があります。コロナ禍の今年もいくつかの小学校から依頼があり、所沢点訳グループ「花みずき」は学校側の感染対策を確認した上で、さらに我々自身もしっかりと感染対策をして小学校に行きました。なぜ小学生が「点字」に興味を持つのか、それは4年生の教科書に掲載されているからです。また、学校としても「福祉」に関心を持ってほしいということがあるようです。

近年、いろいろな場所で「点字」を目にする機会が増えてきました。銀行のATMや駅の券売機、さらにホームドアの片隅、エレベーターの中、公共施設のトイレや階段の手すりなど。家の中では、冷蔵庫の中をのぞいて見ると、ケチャップに点字があり、またビール・ワイン・日本酒・焼酎などは「おさけ」と表示されています。ジャムやドレッシングのビンにもあります。

多くの方は「点字」を見ても、「何か凸凹したものがついている、点字かな？」と思うぐらいではないでしょうか。その「点字」について、少し説明したいと思います。

「点字」は6個の「点」の組み合わせですが、日本語はもちろん世界中の言語、また楽譜や数学・理科記号などを表すことができます。その「点字」を考案したのが、幼少期に事故で視覚障がい者となってしまったフランスのルイ・ブライユです。約200年前の1825年、16歳の時でした。その65年後、1890（明治23）年に東京盲啞学校の教員をしていた石川倉次（くらじ）によって日本語の五十音が考案され、現在に至ります。日本の点字は、6点を「目」に当てはめて五十音が組み立てられています。

学校では、以上のことを簡単に話しながら、「点字」の五十音の組み合わせを説明します。子供たちはすぐに6個の点の組み合わせを理解し、五十音・濁音・拗音・数字などを説明すると、子供たちの吸収力はスポンジのようです。授業の終わりごろには、多くの子供たちが「小学校名 4年1組 氏名」などを点字で書けるようになります。（点字も文字なので「書く」と表現します）

このような授業の中で一番重要なのは、「点字」だけではなく「視覚障がい者」を理解してほしいということです。「花みずき」のメンバーで、一緒に活動している「視覚障がい者」の方がいます。今年は、パラリンピックがありましたので、「自分たちのことを、もっと知ってほしい」「見えなくても、できることはたくさんある」と、日常生活やスポーツなどについて話し始めると、子供たちの関心は一気に集中し、「視覚障がい者」に対する壁が少しずつですが、なくなっているように感じます。普段、接することの少ない「視覚障がい者」を目の前にして話を聞いて理解すること、これが最も重要なことだと考えています。

我々が、目を使って読み書きする文字を「墨字（すみじ）」といいます。その「墨字」を「点字」に訳し、市内の視覚障がい者の皆さまの一助になればという思いで所沢点訳グループ「花みずき」は活動しています。

現在は便利なことに、ほとんどパソコン点訳です。そのため、このコロナ禍であっても自宅で黙々とパソコンに向かい、自分のペースで地道に点訳できるということが強みだと思います。（代表 記）

（点字学習の様子）



（視覚障がい者の話の様子）



手話サークル一二三

手話サークル一二三は毎週金曜日に
“こどもと福祉の未来館”で聴覚に障害
のある方と一緒に手話を学んでいます。
また例年、社会福祉協議会主催の“夏休
み体験ボランティア”と市の公民館活動
の“お話の広場”に参加しています。

夏休み体験ボランティアでは小中学生
に初級クラスの手話指導を担当しお話の
広場では幼児から小学生のお子さんたち
と一緒に手話で歌います。

歌のレパートリーの少ないことが残念
です(言葉がはっきりしない近頃の歌は表現し
にくいので昔の歌に頼っています)。

郊外に出て広々としたところで散策を楽し
みながら手話で友好を深めることもあります。

手話を学ぶことで交流の輪が広がります。

手話に興味がある方、どうぞ見学に来てくだ
さい。



以前の所沢市民フェスティバルで発表している写真



お知らせ

ボランティア相談窓口再開のご案内

ボランティアを始めたい人にV連の相談員が情報を提供しています。

場所

こどもと福祉の未来館 ガレリア(一階ロビー)

毎月 第一と第三木曜日 11時から15時まで

編集後記

前号に続きコロナに臆することなく活動している
我らの仲間が登場して頂きました。

東京オリ・パラが終り 第6波が心配なんて言っているうちに今度はオミクロン。

日常生活で我々にできることは うがい、手洗い、マスク、ソーシャルディスタンス、換気。

1 ページのトコロと一緒に収束まで我慢々々。

最近のV連だよりでは ボランティアにもジワリと IT 機器の利用が求められる時代になったと感じることが多くなりました。

随分前から電話は視覚障がい者に使われていました。

その後 FAX を聴覚障がい者が使うようになりました。

次いで携帯電話、スマホと続き今や最新の情報を障がい者から教えてもらうことも珍しくなくなりました。

障がい者の方が情報にどん欲で 高齢者が多いボランティア団体が

取り残されつつあるのかもわかりません。そんな中 今回の

花みずき 前回の 要約筆記 つくし など 時代に遅れない

グループも出てきて 心強い限りです。

発行元 所沢市ボランティア連絡協議会

連絡先 会員 現在の事務所は 小冊子の地域福祉サロン・リンク 代表宅です。

e-mail 会員外（会員も可）下記の①または②にて連絡が出来ます。

① V連のホームページ

1. 所沢市ボランティア連絡協議会で検索
(<https://tokoro-vren.opal.ne.jp/>)
2. メールアドレスをコピー
3. メールソフトのアドレスに貼り付け

② 直接 bora@tokovren.sakura.ne.jp をメールソフトのアドレスに入力

メールの有無をメール担当者が1日1回はチェックしています。

ホームページでは本V連だよりをPDFで見ることができます。

